



Reitaku Overseas Development Association
RODA ニューズレター

一般財団法人 麗澤海外開発協会 会報

平成29年
(2017年)
2月10日

第22号

第14巻 第2号
年2回発行

主な記事

巻頭 麗澤大学で学ぶブントヴィー・サイヤーさん
 報告 麗澤大学生のネパールでの活動報告(第2回)
 その他 会費等のお願いと納入者名紹介

発行所：一般財団法人麗澤海外開発協会
 〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
 TEL. 04-7173-3165 FAX. 04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
 発行人・木下廣太郎／編集人・横山守男

麗澤大学で学ぶブントヴィー・サイヤーさん

— ラオス国立大学から新たな留学生を招聘 —

一般財団法人麗澤海外開発協会(会長：廣池幹堂)では、平成26年度よりラオスからの留学生招聘事業を開始して3年目となり、大きな成果を上げています。26年度のウドムスック・スリントーンさんと27年度のサイヤリン・プッタソーンさんの両名は、ラオス帰国後、日本語能力試験N2(2級)に合格し、ラオス国立大学日本語学科始めて以来の快挙となりました。スリントーンさんは、N2に合格したことで日本の文部科学省から招致され、再度、日本への1年間の留学が決まり、昨年10月から佐賀大学で勉学に励んでいます。

平成28年度は、9月7日に、昨年度と同様にラオスの首都ビエンチャンにあるラオス国立大学から日本語学科3年生のブントヴィー・サイヤーさんが3人目の留学生として来日し、麗澤大学別科日本語研修課程で1年間の日本語研修を開始しました。ブントヴィー・サイヤーさんは、ラオス北部のサイという町の出身です。

サイヤーさんは日本語への学習意欲がとても旺盛で、ビエンチャンでは大学での授業のほかに日本料理店でアルバイトをしながら積極的に日本語を学んでいました。また、アルバイト先には日本人のみならず、各国の外国人が来店されるので、日本語や英語で対応していたそうです。各国の人たちと積極的に話してみたいという下地があったので、麗澤大学の学生寮に入寮してからもすぐに各国の学生たちとも打ち解け、友だちを増やしています。

サイヤーさんは、28年9月に開催された麗澤海外開発協会の理事会で次のように話していました。

「このたび麗澤海外開発協会の竹原基金から奨学金をいただき、来日することができました。何でもあって便利な日本に留学することができるのは、とても有り難いことだと感謝しています。私は将来、日本語の先生になり、ラオスと日本の架け橋になりたいと思っています。ラオスで日本語を3年間勉強しましたが、実際に日本人と話すチャンスが少なく、教科書だけで学ぶのは、もの足りないと思いながら、いつか日本へ留学して実際に日本の文化を体験したい気持ちが強くなりました。このたび、夢がかない1年間、麗澤大学の別科日本語研修課程で学ぶことになりました。1年間というのはとても短いと思いますが、一生懸命日本語を勉強して、日本の文化もたくさん体験しようと思っています。また、日本人や他の国から来た人たちとも友だちになり、楽しい生活をし、勉強も頑張ろうと思っています。帰国までに日本語能力試験のN2、N1を取りたいと思っています」

この言葉のとおり、サイヤーさんは来日早々から勉学に励み、今年1月には早くもN2に合格することができました。これからもよりいっそうの活躍が期待されます。



麗澤大学生が「ネパールでの現地視察とボランティア」を行う (第2回)

平成28年9月5日から10日まで、麗澤大学外国語学部国際交流・国際協力専攻3年の学生3名(櫛山万葉・中島有紀・中村花梨)が、麗澤海外開発協会(RODA)の支援を得て2回目の「ネパールでの現地視察とボランティア」を行いました。

麗澤大学の外国語学部国際交流・国際協力専攻の学生有志9名は、平成26年度から自主企画ゼミナール(G9)を結成し、チームとしてさまざまなボランティア活動を行っています。平成27年には、4月25日に発生したネパール大地震の後に現地およびJICA事務所への訪問・取材を行い、「現地の人々は、災害の発生時にどのような対応をすればよいか分からずに迷っている」「現地のNPO・NGOの防災活動はあまり行き渡っておらず、避難訓練などのプログラムはないに等しい」という課題が分かってきました。

これを受けて今回は、チームの中の3名が活動テーマを「防災教育」に定め、日本で得た知識を共有するのではなく、現地の人々の目線でどのように実践すればよいかを一緒に考える時間をつくり、現地の人々の防災意識を高めることを目標に視察とボランティアを実施しました。

主な活動は、震災による世界遺産の被害状況と復興経過を視察し、バグマティ県シタパイラ村に位置する小中一貫校「Shree Sitapaila Higher Secondary School」を訪問して「中学生を対象とした防災教育」を行い、「一学期間に麗澤大学内で募集した支援物資(筆記用具)を同校に寄付」することです。

現地の中学生への防災教育では、「非常持ち出し品として何が必要か」を考え、仮想マップを用いて「どこに避難するべきか」について考えてもらうワークショップを行いました。みんなが集中してワークショップに取り組んでくれたことで、彼らの災害へのイメージや対応策を知ることができ、訪問したチームにとっても新たな学びとなり、非常に充実した時間を過ごすことができました。



〈主な活動〉 (Shree Sitapaila Higher Secondary Schoolにおける活動)

①日本文化交流 (ネパール語訳『桃太郎』の読み聞かせ)

麗澤大学経済学部在籍のネパール人留学生に簡潔に翻訳していただいたネパール語の『桃太郎』の原稿を使い、生徒たちの前で発表した。その内容が通じたようで、これが好印象となって、アイスブレーキング前に彼らと打ち解けることができた。

②アイスブレーキング(風船渡しゲーム)

ワークショップにつなげるために用意したゲーム(中村が担当)。1つのクラスで6チーム作り、各チームの最前列の生徒から最後列の生徒まで様々な条件をクリアしつつ風船を渡し、最後列から最前列に風船を返していくというもの。初回は目をつぶったまま後方へ、2回目は手拍子を5回してから風船を受け取り後方に、最後は自分の名前を書いてから後方へと渡していく。このゲームを通じて私たち学生とネパールの生徒たちとの距離が縮まり、ワークショップへスムーズにつながった。

③減災教育ワークショップ

・非常持ち出し品

中島が担当した1つ目のワークショップ。震災が発生し避難を余儀なくされたときに非常持ち出し品として何を避難所へ持っていくべきかについて考えることを目的とした。私たちが用意した10個の選択肢から、まず個人で3つ選んでもらい、そこから6チームに分かれてそのチーム内でさらに3つに絞り、ディスカッションを終えた段階で各チームの代表に発表してもらう。

・仮想マップを用いた避難先の判断

櫛山が担当した2つ目のワークショップ。18の施設が存在する架空の町を紙に描き、その地図を用いて「震災が発生すると各施設にどのような影響があるか」を踏まえて「避難先としては何が適切か」について考えてもらった。これも非常持ち出し品ワークショップと同様に、6チームに分かれて議論をしてもらい、最後に発表してもらった。



④物資支援 — 筆記用具の寄付

麗澤大学内で募集した筆記用具をShree Sitapaila Higher Secondary Schoolに寄付した。また、麗澤海外開発協会から出資していただいた支援金の一部を使い、現地で更に全校生徒分のノート・鉛筆を購入。各クラスに回って全員に平等に配布した。

〈被災地の視察〉

今回もカトマンズ周辺の世界遺産を視察。震災からの復興経過を改めて知るため、麗澤海外開発協会から紹介していただいたネパールのイスワル氏にご協力いただき、各地に車で移動。被災地としてどのような対応がなされているか、また観光地としてどのような取り組みが行われているか等についても調査した。

- ・カトマンズにある巨大仏塔ボダナート(写真左)
- ・カズ盆地にある仏教寺院スワヤンブナート(写真右)
- ・ダルバール広場／パシュパティナート等



たくさんのご支援、ありがとうございます

<平成28年4月1日～12月31日> 掲載に同意された方をご紹介します(順不同)

■会費

廣池幹堂、竹原茂、甲良昭彦、内田誠一郎、木下廣太郎、関哲夫、大橋政夫、野田ミート(株)、(株)ピアかざりや、山口明、内田八代、長谷和治、土谷和光、大河原良雄、栗山清和、高松宇佐雄、横山守男、山本祥子、柏谷康博、横山印刷(株)、合資 川貞商店、今井收、所一彌、石渡英雄、長谷篤治、山田雅雄、佐藤薬品工業(株)、小野剛、松本哲洋、小西直之、古川定邑、俣野幸昭、桑島義智、小山松男、小嶋義佑、和田悦治、長谷川和子、太田徳昭、今木康之、水田恵一郎、小林雅純、大内栄三、永治達彦、島田京子、濱井利一、上田通泰、野田雅義、福井博康、桑島朋子、平塚靖永、藤村薫、須見好和、有限会社 弘明堂、松岡孝稔、三木実、木津孝道、松本彰夫、澤田栄作、菅間正則、岩田英志、山口秀正、横山明弘、黒白常光、菅澤運一、藤尾佑男、田中一宏、板垣廣光、沼野文子、沖野二郎、北川治男、岸上肇、鈴木貞夫、長谷真千子、細野眞、黒川洋、小金井暁子、森口真美、淡島成高、大上正、永治真樹、肥塚憲造、森田武志、青木久子、益田晴華、伊藤温夫、田口英樹、関口輝比古、村田光生、村瀬泰比古、吉井通裕、三木重充、相生モラロジー事務所、奥光明、世田谷北沢モラロジー事務所

■準会費

望月敏雄、阿折淑子、俣野貴昭、杉生ウタエ、俣野喜代美、俣野智美、長谷英治、中村靖夫、林善介、行本まり子、安田誠一、浜井則継

■一般寄付金

廣池幹堂、長谷和治、渡辺康博、横山守男、小松務、山本祥子、(株)ダイキョープラザ、所一彌、長谷篤治、山田雅雄、俣野幸昭、(株)小松製菓、山崎純雄、和田悦治、上田通泰、大住敬一、福井博康、荻野益男、井上照悟、神田和、北敬子、松岡孝稔、小川彰平、木崎重安、橋本光世、山田武司、沖野二郎、森口真美、永治真樹、小野義仁、肥塚憲造、関俊章、青木久子、伊藤温夫、油谷恒雄、石黒美恵子、板橋芳夫、柿本勇人、笠田環嗣、勝矢啓司、早乙女静子、佐久間三郎、橘高重久、小林安子、酒井克一、島崎執、神野稔也、鋤柄誠治、富松哲次、長尾小静、中津川達雄、西脇照男、(株)丸信、増田頑次郎、三笠忠克、三上ハツミ、御代川克之、久保田恵子、大阪和泉モラロジー事務所、春日部モラロジー事務所、高松モラロジー事務所、栗東モラロジー事務所、鹿行モラロジー事務所、栃木市モラロジー事務所、長島モラロジー事務所、宮城県北部モラロジー事務所、横浜港北モラロジー事務所

■竹原基金

廣池幹堂、長谷和治、竹原茂、土谷和光、高松宇佐雄、横山守男、山本祥子、柏谷康博、長谷篤治、山田雅雄、大垣モラロジー事務所、桑島義智、小嶋義佑、和田悦治、上田通泰、福井博康、荻野益男、桑島朋子、所一彌、山口明、松岡孝稔、澤田栄作、横山明弘、中村靖夫、沖野二郎、森口真美、永治真樹、青木久子、伊藤温夫、山田莊一、(株)めこん、ウィクラマラタナ文子、片山道則、加藤信次、桑島祥子、小林一正、鋤柄誠治、支援キルトの会ふーぷ、堺北モラロジー事務所、浜松西モラロジー事務所

《会員・準会員募集中》

麗澤海外開発協会は皆様からお寄せいただいた会費や寄付金によって活動しています。

会員および準会員を募集していますので、是非ご入会いただきますようご案内いたします。

種類	年額
会費	1口1万円(1口以上)
法人会員	1口1万円(1口以上)
準会員	1口2千円(1口以上)
寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
 名義／一般財団法人麗澤海外開発協会
 ※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567
 名義／一般財団法人麗澤海外開発協会

一般財団法人
麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065
 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL: 04-7173-3165
 FAX: 04-7173-8953

E-Mail: kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp
 HP: <http://www.reitaku.or.jp/>



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものといたしますので、ご了承ください。